

情報通信審議会 情報通信技術分科会 放送システム委員会
23GHz 帯無線伝送システム作業班(第2回) 議事要旨

1. 日時:平成30年12月21日(金)10:30~11:30
2. 場所:総務省(中央合同庁舎2号館)11階 11階会議室
3. 議題
 - (1) 「23GHz 帯無線伝送システム」の双方向化等に係る共用検討の結果について
 - (2) 作業班報告書の骨子について
 - (3) その他
4. 出席者(順不同、敬称略)
 - (1) 構成員
野田主任(スターキャット・ケーブルネットワーク)、上園主任代理(ジュピターテレコム)、石川(ヴィ・ネットワーク・システムズ)、石田(古河電気工業)、大原(マスプロ電工)、小竹(テレコムエンジニアリングセンター)、亀谷(国立天文台)、川西(KDDI)、北原(京セラコミュニケーションシステム)、柴田(日本ケーブルラボ)、高橋(シンクレイヤ)、谷澤(日本無線)、中島(日本ケーブルテレビ連盟)、中丸(日本CATV 技術協会)、松下(DXアンテナ)、八木(NTTドコモ)、米川(上越ケーブルビジョン)
 - (2) 事務局
安澤、高山、太田(情報流通行政局衛星・地域放送課地域放送推進室)
5. 配付資料

資料 23G 作2-1	23GHz 帯無線伝送システム作業班(第1回) 議事概要(案)
資料 23G 作2-2	23GHz 帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術基準の策定に向けた考え方(第1回作業班資料)
資料 23G 作2-3	2 偏波 23GHz 帯無線伝送システムによる電波天文との干渉について検討
資料 23G 作2-4	23GHz 帯無線伝送システムの偏波多重技術採用に伴う無線エントランスシステムとの共用条件検討について
資料 23G 作2-5	23GHz帯無線伝送システム作業班 報告書骨子(案)
参考資料 23G 作2-1	平成 24 年情報通信審議会答申(諮問第 2024 号「ケーブルテレビシステムの技術的条件」のうち「23GHz 帯無線伝送システムの技術的条件」)
参考資料 23G 作2-2	23GHz 帯無線伝送システム関係法令(抜粋)
参考資料 23G 作2-3	今後の検討スケジュール(案)

6. 議事概要

議事次第に沿って検討を行った。主な概要は以下のとおり。

(1)「23GHz 帯無線伝送システム」の双方向化等に係る共用検討の結果について

亀谷構成員、八木構成員より、それぞれ資料 23G 作2-3、2-4に基づき説明があり、主に以下の質疑が行われた。

- 交差偏波識別度を 25dB で計算したとのことだが実力値はどれくらいなのか。(野田主任)
- 具体的には言えないが、無線エントランスの場合、25dB～30dB 程度である。(八木構成員)

(2)作業班報告書の骨子について

事務局より、資料 23G 作2-5に基づき説明があり、主に以下の質疑が行われた。

- 垂直と水平偏波に分離する際、通常の出力量よりそれぞれ 3dB 小さくなるが問題ないのか。現在、伝送可能距離がギリギリの範囲で使用されている場合、3dB 小さくなることで影響があるのではないか。伝送距離が分かる資料があっても良いのではないか。(柴田構成員)
- 事業者にとって使用の目安となる資料があっても良いかもしれない。(野田主任)
- 追加する方向で検討させていただく。(事務局)

(3)その他

事務局より、第2回 23GHz 帯無線伝送システム作業班の開催日程について、調整の上別途連絡する旨の説明があった。

以上